



活力ある共生社会の実現に向けて



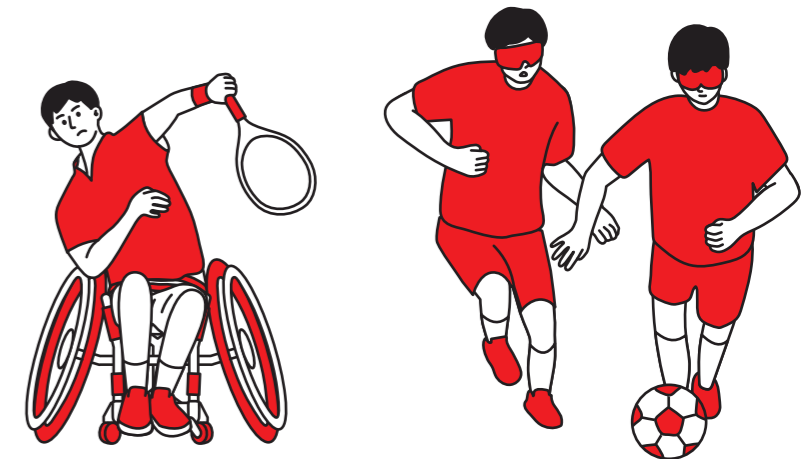
公益財団法人日本パラスポーツ協会
日本パラリンピック委員会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6

Photo: エックスワン、アフロ Design: TIDE DESIGN CO.,LTD
2021年8月第1版発行 2021年12月第2版発行 2026年3月第3版発行



公益財団法人日本パラスポーツ協会 2030年ビジョン





私たちの願い

1. 障がいの有無、性別、年齢、国籍や価値観、性格の違いなどを尊重し、誰もが個性を発揮して活躍できる社会を目指す
2. スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、自立心を養うとともに、社会の一員としての人格形成に寄与する。このようなスポーツの価値を、障がいのある全ての人々が共有できるようにする
3. スポーツを通じて、社会の「障がい」に対する理解を深め、障がい者の社会参加を広げる

私たちが目指すもの

わたしたちJPSAは、スポーツの持つ力を信じ、
 パラスポーツを通して活力ある共生社会を実現させることを目指しています。
 「2030年ビジョン」の後半戦。
 パラスポーツをする人、見る人、支える人、多くの仲間とともに、
 歩みを止めず進んでいきます。

Go Forward, With Us!

私たちの課題とは？

1. パラスポーツの普及拡大のための環境整備
2. パラスポーツの競技力向上と、普及拡大との「好循環」を推進するための体制強化
3. 「好循環」を持続させるための更なるパラスポーツの理解促進とファン拡大
4. パラスポーツの更なる発展に向けた、JPSAの万全な基盤づくり

活力ある 共生社会の 実現に向けて

多様性を認め合う共生社会の実現(木を繁らせる)を目指し、
「パラスポーツを普及・拡大する(裾野を広げる)」取り組みと、
「競技力の向上(山を高くする)」取り組みを
好循環させることによって、
パラスポーツの振興を加速します。

競技力の向上

MISSION 3 MISSION 4

山を高くする

木を繁らせる

共生社会
の発展

MISSION 5 MISSION 6

裾野を広げる

パラスポーツの普及拡大

MISSION 1 MISSION 2

活力ある
共生社会の
実現

2030年ビジョン 6つのミッション

パラスポーツの普及拡大

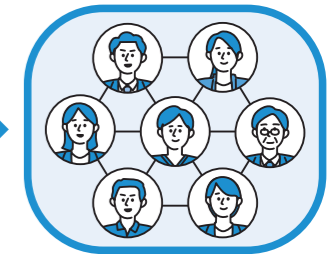
MISSION 1

パラスポーツの
普及拡大の
実現



MISSION 2

関係団体との
強い
連携・協働



競技力の向上

MISSION 3

競技力の向上と
パラスポーツの
価値・魅力の向上



MISSION 4

パラスポーツを
通じた国際協力の
推進



共生社会の発展

MISSION 5

共生社会実現に
向けた国民の
意識変革の促進



MISSION 6

万全な
基盤づくりの
実現



TOPICS

パラスポーツ= もうひとつのスポーツ

「パラスポーツ」は地域行政や企業のイベント、マスコミ等で既に一般化しており、より親しみやすく分かりやすい呼称として、本ビジョンでは使用。

パラスポーツの特徴

一般に行われているスポーツをベースに障がいの種類や程度に応じてルールや用具を工夫しているスポーツ
障がいのある人のために考案されたスポーツ

パラスポーツの将来性

障がいのある人もない人も共に実践して楽しめるスポーツ

MISSION 1

パラスポーツの 普及拡大の実現



めざす未来

スポーツ基本計画(文部科学省)が示す、障がい者成人の週1回以上のスポーツ実施率の向上(目標:2027年度に40%程度)

パラスポーツ指導者を毎年5,000名養成し、障がい者のニーズに応じて、身近な地域のスポーツ現場で指導・支援する人材の充実を図る



取り組み

1 全国障害者スポーツ大会の充実・発展

- 全国障害者スポーツ大会の充実・発展
- 開催県における大会レガシー醸成と、後催県・他県市への伝播
- ブロック予選会に関する実施基盤及び運営の見直し

3 パラスポーツ普及を支える指導者育成

- スポーツ指導者数の拡大
- スポーツ指導者の育成

2 地域振興を通じたパラスポーツ理解の環境づくり

- 学校でのパラスポーツ理解の環境づくり
- 「パラスポーツセンター機能*」の全国展開促進
- 総合型地域スポーツクラブ等への連携支援強化

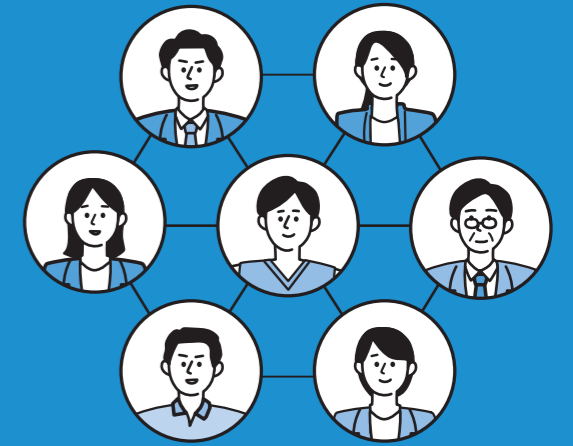
*パラスポーツセンターに期待される4つの機能
(ネットワーク機能、情報拠点機能、人材育成・関係者支援機能、指導・相談機能)のこと

4 パラスポーツ振興に関する連携・協働・調査研究

- 日本スポーツ協会(JSPO)等との連携・協働
- パラスポーツ振興に関する調査研究

MISSION 2

関係団体との 強い連携・協働



めざす未来

全国の全ての都道府県・政令指定都市(以下:県市等)において、障がいのある人が日常的にスポーツを楽しむ環境が整い、スポーツに参加している

全国の全ての県市等において、行政、パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターが連携を深め、四者が主体的にパラスポーツの振興を進めている



取り組み

1 全国すべての県市等における、 パラスポーツ振興への支援

- 県市等でのパラスポーツ普及支援
(スポーツ教室、大会、イベント等開催の促進)
- 県市等のパラスポーツ協会等の組織運営の支援
(専任のパラスポーツコーディネーター含む)

2 県市等への、 パラスポーツ関係諸団体間の連携支援

- 行政、パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターの四者が協働し、主体的にパラスポーツ振興を進めることを支援する



MISSION 3

競技力の向上と パラスポーツの 価値・魅力の向上



めざす未来

- 2028年夏季及び2030冬季パラリンピックにおいて、金メダル数、総メダル数、メダル獲得競技数の最大化を図る
- パラリンピック・デフリンピック等の各種実施競技の国際大会が、日本で毎年開催される
- JPSA登録競技団体の法人化と、ガバナンスコードを遵守した自律的な運営の実現

取り組み

- 1 競技力の向上
 - 世界を目指すパラアスリートの活躍支援
 - 強化環境の整備
 - JOC等との連携強化
- 2 日本での主要国際総合競技大会への協力
 - アジアパラ競技大会(愛知・名古屋)成功への協力
 - デフリンピック夏季2025大会(東京)成功への協力
- 3 競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティ向上支援
 - ガバナンスの強化とコンプライアンス・インテグリティの徹底
 - アンチドーピング活動の徹底

MISSION 4

パラスポーツを 通じた国際 協力の推進



めざす未来

- 国際パラリンピック委員会(IPC)・アジアパラリンピック委員会(APC)をはじめ、競技別及び障がい別の国際スポーツ統括団体(IF及びIOSD)の役員や競技運営役員(審判、クラス分け、技術役員等)を輩出

取り組み

- 1 国際協力
 - 国際役員等の輩出や国際協力事業等の推進



MISSION 5

共生社会実現に 向けた国民の 意識変革の促進



めざす未来

- 共生社会実現のための意識改革に向けた、パラスポーツに関連するイベントや広報活動等の充実

取り組み

- 1 パラスポーツの理解促進を通じて共生社会実現に向けた国民の意識変革を促す
 - パラスポーツ大会などの開催(ジャパンパラ競技大会)
 - パラスポーツ・パラリンピックムーブメントの促進
 - 広報活動の充実、マスメディアとの連携



MISSION 6

万全な 基盤づくり の実現



めざす未来

- 全ての職員が複数分野のJPSA業務を経験し、状況の変化に部門を超えて対応できる柔軟な組織の実現
- 「JPSAオフィシャルパートナー制度」「JPCオフィシャルパートナー制度」の両輪による安定的な財政基盤の確立

取り組み

- 1 JPSAの組織体制の強化
 - JPSAの業務遂行体制の見直し・強化
 - 専門委員会の効率的・効果的運営
- 2 財政基盤の充実・安定化
 - 活動資金の安定確保(寄附金募集の拡充も含む)
 - 企業との「パートナープログラム」の充実



公益財団法人 日本パラスポーツ協会
Japanese Para Sports Association

JPSA

日本パラスポーツ協会

日本における パラスポーツの 統括団体

1964年に開催されたパラリンピック東京大会を契機に、わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織として、65年に財団法人日本身体障害者スポーツ協会が設立されました。98年の長野県で開催された冬季パラリンピックを契機に、3障がい(身体、知的、精神)全てのスポーツ振興を統括する組織として、また国際舞台で活躍できる選手の育成・強化を担う統括組織としての位置付けが有識者会議で提言されました。そこで99年、財団法人日本障害者スポーツ協会に組織名を改称するとともに、協会内部に日本パラリンピック委員会を創設しました(その後、2014年8月公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に改称)。2021年10月、東京2020パラリンピック競技大会のレガシーを継承し、障がい者スポーツの一層の普及・振興を図るために、協会名称を日本パラスポーツ協会に変更しました。

デザインは火の鳥の羽をモチーフにした。赤は未来へ飛翔するアスリートたちの心のなかに燃える炎をイメージしている。



JPC

日本パラリンピック委員会

1998年に開催された長野パラリンピック冬季競技大会を契機に、99年、JPSAの内部組織として日本パラリンピック委員会(JPC)を創設しました。JPCは日本を代表する組織として国際組織・競技団体に加盟し、国際競技大会への選手団派遣や、国内の選手強化を実施しています。



パラリンピックとは

パラリンピック競技大会(Paralympic Games)は、夏季・冬季それぞれのオリンピック開催年に、原則としてオリンピックと同じ都市・同じ会場で行われる世界最高峰の国際パラスポーツ大会です。大会名にある英語表記「Paralympic」は、「Parallel(並行した、沿う)+Olympic(オリンピック)」を表しています。



JPC戦略計画

世界を目指すパラアスリートの活躍支援戦略

1 トップアスリートの強化

- 国際大会派遣に伴う支援
- 重点強化競技のメダル獲得に向けた強化
- 医・科学・情報サポートの充実、競技用具の研究・開発促進
- トップアスリートの環境整備
- メダル獲得の可能性のあるアスリートの強化

2 アスリートの発掘・育成

- JPCアスリート育成パスウェイの構築及び競技団体アスリート育成パスウェイの構築
- 女性アスリートの育成
- メダルポテンシャルアスリート(MPA)の増加策の検討実施
- タレント発掘活動の実施

3 JPC加盟競技団体の組織力の強化

- 競技団体役員のマネジメント力の向上
- ガバナンスの向上

パラリンピックムーブメント推進戦略

1 パラスポーツの価値向上

- JPCブランド価値向上
- 広報活動の充実

2 パラスポーツ教育

- パラリンピック教育(『I'mPOSSIBLE』日本版)の普及

3 アスリート教育(人間力の向上)

- インテグリティ・ハラスメント研修会の実施・充実
- アスリート教育プログラムの開発・実施・推進

4 国際協力

- 国際役員としての活動を通じた世界のパラスポーツ発展への協力
- 他組織との連携・協働を通じた世界のパラスポーツ発展への協力